

有限会社こだま製作所

父である先代が、ガス器具のスポット溶接という、金属に電流を流す電極の先端で挟み、加熱・溶接する加工から始めました。その後、建築金物や照明器具、電機部品へと扱うものが変化。製品の小型化、軽量化が進み、さらに金属の種類、機能も変わっていききました。材料が変われば、従来の溶接加工では対応できない。その都度、溶接技術を工夫したり、治具を工夫したり、無理だろうと思われた加工も実現してきました。その評判を聞き、製作が進まず困りに困った企業が「なんとかやってもらえないか」と相談に来られることが多いですわ。

1個からの試作にも対応する簡易治具製作ノウハウと、非鉄金属溶接技術、精密溶接の複合が、工業製品のエリアに留まらず、さまざまな分野の製品に対応しております。アート製品なども「他社で出来ない」と言われて」と、よくご依頼いただきます。アート製作の場合、重要なのが接合箇所の美観・強度。そこで抵抗溶接を用いることで、製品への負荷を抑え強度もあげることができます。

開発部分に関わることも多く、新しい溶接の方法を模索。それこそ、自分たちも勉強になり、その技術を別の案件に活かすことも。うちを頼ってきてくれた方の依頼は断らない。採算よりも挑戦し、向かっていきたいですね。

代表取締役 笹尾恭三さん



微細加工や薄板加工など
どんなものでも溶接技術を駆使して可能!!

アルミスポット溶接は
液晶テレビや新幹線の
部品に、500種類を
超える実績があります。



さまざまな形状の電圧センサーや
接点の製作を試作。
少量製作から
対応できます。



切って曲げての
薄板加工技術と
器具も自分たちで作る溶接加工。
この2つを組み合わせて行う薄板加工は
100分の1の精度で、誤差がほとんどない。

世界最小の
マイクロフォンケース
も製作した。

ペン先ほどの搾り加工の
実績もあります。
世界最小マイクロフォンの部品を
100個だけ製作しました。
大きいものでは、
重さ1トン、14mの巨大な
アルミ製バルーンも製作しました。



アルミバルーンは、
東京現代美術館の
建築デザイナー展の
メインフロアに
展示されました。
工期1カ月で
製作したんです。

うちは昔ながらの
古い建物で、
少人数という状況で
できることをする。
無駄なものに投資せず
生産性や質をあげればいい。

量産に向かっているのは嫌なんです。
いかに端的にできるか...
そめる考えるのが面白いんです。

大阪テクノマススターに認定

我が社の
自慢

ものづくり技能者の中で卓越した技能を持ち、さらに次世代のものづくりに寄与する取り組みを行っている方を、大阪市長より認定・顕彰する「大阪テクノマスター」。菅尾さんは、平成17年度に認定されている。

薄い金属の加工や溶接加工 微細部品から美術品まで対応

外観は小さな町工場そのもので、うっかりすると通りすぎてしまうほど。従業員わずか5名の小さな会社が、難易度の高い微細加工や薄板金属の溶接加工で、他社がまねできない技術力を持っているとは思わないだろう。

金属を使用する製品は、必ずと言っていいほど溶接加工が必要になる。ある程度の大きさや厚みのある金属なら、溶接もそれほど難しいものではない。同社は、0.04mmといった電子部品などに使用される薄板金属の加工に強味を発揮。さらに非鉄金属、つまり銅や真鍮、ステンレス、チタンなど鉄以外の金属を得意とする。同社が行う抵抗溶接は、溶接したい2つの金属板を電極ではさみ、電流を流して熱をもたせて接合する加工法のこと。金属は通電性が高く加工も簡単なように思えるが、実は金属ごとの性質や特徴によって電流の流し方や溶接法を工夫しなければならない。たとえば、チタンは熱を加えると酸化しやすく変色するので、微妙な温度調整が必要になる。アルミは、表面は溶けにくいけれど中は溶けやすいので、表面の融点に合わせ高電流で溶接。銅の板は通電性が良すぎて電流を通してしまいうので、電流を流すスピードや時間に工夫が必要など。金属の性質を知り尽くし、それに応じたオリジナル溶接ができることが同社の強味と言える。

次の展開として、メーカーとしてオリジナル製品の開発・製造もすでに進行している。薄板金属と溶接技術を活かし、生活雑貨やアクセサリといったコンシューマー商材で製品化を検討中。「デザイナーとタッグを組み、デザイン性に富んだ製品を開発していきたい。もともとある設備と技術を使うので、初期費用はかからないし、サンプルも1日かからず作れるので、思い切って挑戦できます」。販売用ウェブサイトも、すでに企画が進んでおり、メーカー的側面を持ちあわせた企業へと変わりつつある。

社名の「こだま」は先代社長があえて、苗字とは違う覚えやすい屋号を考え、付けたもの。昭和39年に開通した新幹線になぞらえ、一番手である「ひかり」は追いつけられるだけ、それよりも2番手の「こだま」のように、着実に成果を上げ続ける存在でありたいという思いをこめてネーミング。私利私欲ではなく、お客様のためになることを求めるというのが、同社の指針。自分の利益よりも他人の利益を考え求めるとマーケットは広がるもの。

有限会社 こだま製作所

http://www.kodama-tec.com/
〒544-0011 大阪市生野区田島6-4-6
TEL 06-6754-3833 FAX 06-6754-3834

事業内容 / 薄板・微細・精密板金部品の試作、少ロット製作および精密溶接加工による各種製品製作(マイクロスポット溶接加工)